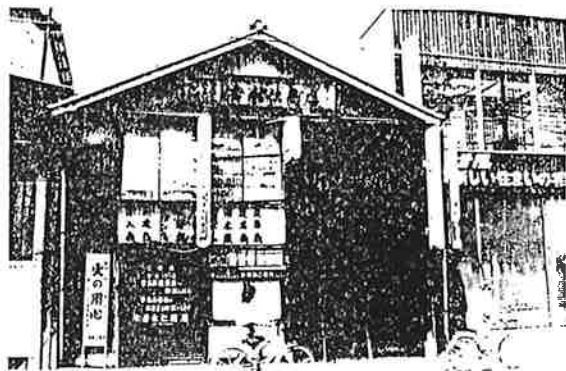
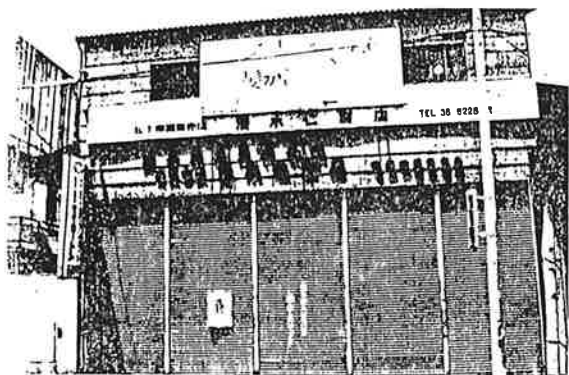


たの日。

Project

記憶の呪縛から



そもそも、風景は誰のものなのか。 誰のものでもあるまい。
街の風景は、すべて移行の途中にある。 体験を通してその場のはるかな記憶を感じとり、解放し、 新たな記憶をあなたの心に留めよう。
風景の死と再生の儀式に、あなたの身体をもって立ち会いませんか。

場所 太田町公園西 清水仁商店
期間 7月下旬より1月間
連絡 tel (32) 7603

「富士は富士どこからみても富士は富士」
 これはある人の句であります、みなさんほどの様に感ぜられますか？ 私には、この人にとって富士の美しさは日常であって、その場に生活している満足感と、富士の持っている魅力を超越しての独自性と前向きな動きが、さりげない言い方の奥に感じられます。

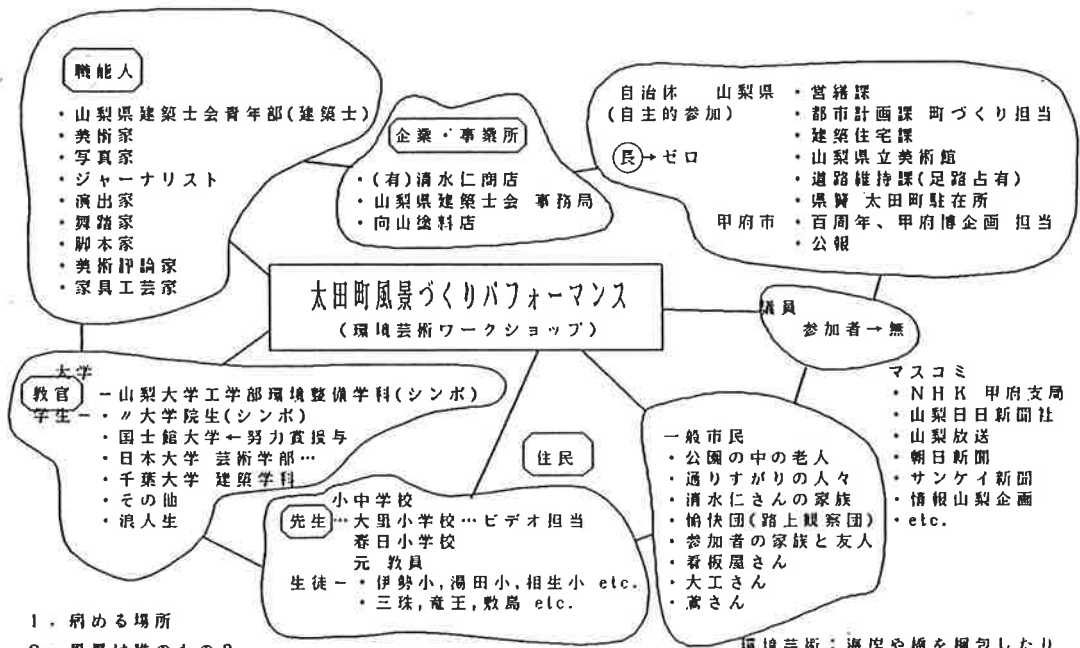
私の住んでいます甲府では今、リニア新幹線の実験線の誘致決定に伴う投資や、リゾートマンション投資等で環境問題等不安と希望が入り混じった複雑な気持ちになっています。もちろん絶対的に見えていた富士も、見たい人が増えますといろいろな問題が出て来て、住んでいる環境を見つめ直すとする動きがあちこちで起こっています。また、この様な外的要因に似るゆさぶりや、地方都市が抱えている社会構造的及び都市構造的な変化に追い付けず、人々はちょっと前までもっていた地方都市の生活のしや

すさや、居心地の良さみたいなものが一つ一つ見かけなくなっていることに不安を隠せません。

全国あちこちの地方でアイデンティティーの模索や確立のため、行政・民間こぞって地域おこしの目玉として町づくりを位置付けていますが、楽観的なムードだけが先行してイベントだけで終わってしまっていることも現実的な問題点として反省も出ています。

地域の再生から、地域独自の地域経営を賄うまでは、一朝一夕には出来得るものではありません。その地域に関わる人々がそれぞれの暮しぶり（ライフスタイル）を見つめ直すことから始まることと思います。

そして建設という術を持っている建設業界は何をもってこの様な流れに対処して行けば良いのでしょうか？。今回は風景（景観）を通して建設経済の一面として検討していただければと思います。



1. 病める場所
2. 風景は誰のもの？
3. 手づくりの風景イベント
4. 環境芸術シンポジウム

環境芸術：海岸や橋を欄包したり見ると人の周囲をオブジェなどで囲み、時には音や光を加えて独特の環境をつくり上げる現代美術の一手法

風景づくりネットワーク

1. はじめに

・病める場所

つい最近まで、私達の暮らしている地域は、その地域を特徴づける雰囲気があちこちに現れてきました。が、社会構造の変化と都市の偏った開発計画により、人々を移り住み替え、特徴のない均一な街や通りが増えています。日本中どこへいっても同じ表情をしているのはなぜでしょう。ここ甲府市太田町でも車社会が急速に進み、かつての魚町・桶屋町・鍛冶屋町等の間屋街等が、配送効率と交通混雑緩和のため、郊外に流通センター団地・〇〇市場へと移りました。確かに狙い通りに整備されたかの様相はありますが、反面都市に溢れていたいろいろな魅力が消え失せ、若者達は面倒のない郊外に移り住み、空洞化と共にコミュニケーションもズタズタに切れ、無表情な抜けがらの様な街に変わっています。

”もの”が溢れるこの大消費社会をもっと押し進めようとする動きの中で、地方の流通団地内の問屋さん達の動きは、大手の配送業務の傘下に入るか、よりエンドユーザーに近づくため小売業への転身を考えているところが多いと聞いています。私達の住んでいる甲府位の地方都市で、はたして今までの様な都市の住み替えが妥当であったのか疑問を感じます。

それぞれの地域は、それぞれの特色と事情が重なり合って地域を形成しています。その古くから形成されてきた街の「風景」は、人々の記憶が追い付いて行けない程の速さと手放し状態でどんどん変わっています。私達山梨県建築士会青年部はここ数年まちづくり及び景観の提案をいくつも手がけさせていただいています。今回の「太田町風景づくりパフォーマンス」は、前述の様な空洞化した甲府の遊亀公園前の材木商の倉庫を借り受け、オーナーの悩みと病める場所を引き金に、倉庫跡利用計画のコンセプト作りの前段の動きとして、位置付けました。地域の人々と、そこに存在している風景との関わり合いを士会青年部が中心になり、環境芸術ワークショップ（代表美術家高橋辰雄）との共同作業を通し純粋な汗を流しながら、甲府にとって

この太田町公園前は何んであったのだろうかと、模索・検討した模擬実験でした。

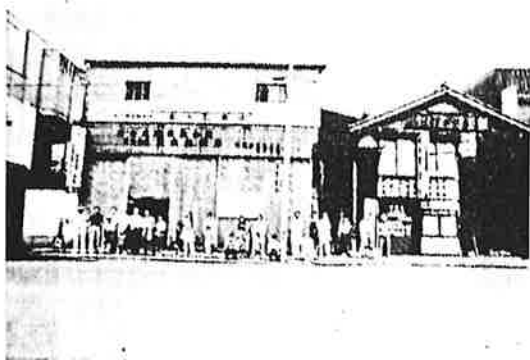
2. 風景は誰のもの？

「そもそも風景は誰のものなのか、誰のものでもあるまい。町の風景はすべて移行の途中にある。」……記憶の呪縛から……高橋辰雄、「この建物にペンキを塗ってみませんか」……山梨県建築士会青年部+環境芸術ワークショップ……と今年の7月24日をオープニングに、子供達（半数）を含め約30名近い参加者が白い刷毛を持ち巨大なカンバスに挑みました。暑い暑い一日でしたが、予定作業の建物の下から1/3まで塗り終えました。夕方、ペンキだらけになった子供達と参加者全員のパーティーで、これからの作業のことや、いくらか風景が変わったか？など、いろいろな意見がかわされました。

いうまでもなく町中の一つの建築が生まれるとき、再生されたとき、無くなる時、人々は様々な関心を示します。又その風景を意識の中で存在を確かめると、日常性の中に同化して、あまりこだわらなくなります。日常と非日常の間（ハザマ）で仕事している私達（建築士）は、その反復作業の刺激に生きていいと言っても良いでしょう。この建物が解体される前に死化粧をみんなで白く塗ってあげよう！白く塗ってあげた後の人々の記憶の確かさと、風景の変り身を確認しよう！と”風景の解体の儀”を通して、ワークショップの方向性が生れました。

3. 手づくりの風景イベント

約一月間の作業の中で、参加者の中から、せっかく創ったこの風景を町づくりの動きの中に導こうと、イベント計画が出されました。それはこの建物を中心に、公園内で甲府演劇集団の野外劇「公園」を、前衛舞踏家芦川羊子氏が主宰する白桃房の「ホワイトペインティング」という舞踏をこの廃虚の白い館の中で、三者による複合イベントの提案でした。いろいろな人が関わって、それぞれのネットワークをフルに生かして、時間をかけ、じわじわと情報を発信した結果、当日集まった人々は約25平位の角材



を敷いただけの客席に二百数十名が入り、大入満員になりました。公園内の野外劇では、“公園という場所と人々の出会い”について考えさせられました。建物内では白桃房がこの場所に彷徨える地霊を呼び興し、一瞬の異次元空間を創り上げました。観客の中から戦後の焼け跡の廃虚の風景だ！武田氏の前の一条家の霊たちだ！との声、遠いはるかな記憶の再現をしてくれました。

また観客の世代は子供から老人まで、多彩で特に私たちの動きを一ヶ月間、外から見てくれていたおばあちゃんたちの参加が印象的でした。

この様に私達山梨県建築士会青年部の主催しましたこの手づくり風景イベントはいろいろな思いを残し成功裏に終了しました。この風景というテーマを通して、参加者一人一人、勝ち取るものは多かったと思います。そして自分の日常の中にその勝ち取ったものをこの様に転換出来得るか、それぞれのこれからの課題も生まれました。

4. 環境芸術シンポジウム

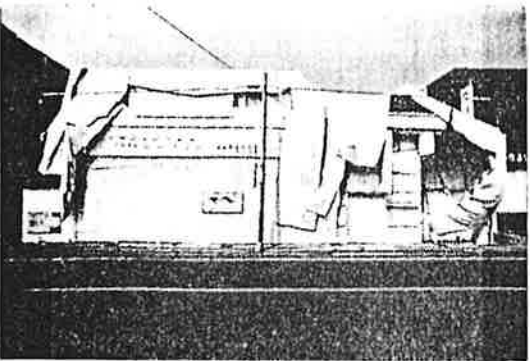
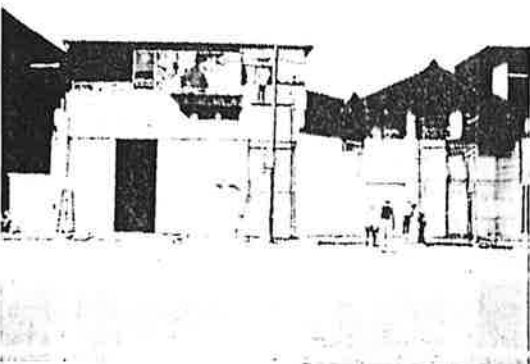
9月15日、「地域活性化（まちづくり）と複合イベント」と題して士会青年部長、進藤哲雄氏の司会で、シンポジウムが開催されました。その中で次のようなことが提案されました。

① 甲府市内での公園の位置付けを明確に、そしてこの公園という公共空間を利用した周辺の再生を期待する。


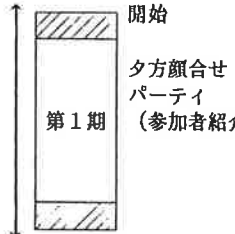

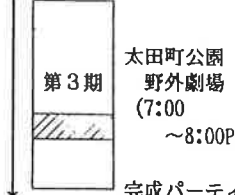
② 病めるこの場所は、公園の前という特性を生かして半公共的な空間として、地域の人々のために再生し、経営できる様に企画したい。

③ 参加した人の幅の広さは意義があり、町づくりの中にもう一度落とし込んで欲しい。

等 でした。また今日の一連の流れの中で、NHKを始めとする外からのマスコミの取材は大変でした。小さな私たちのネットワークの確かな情報発信が、全国に広がる程のニュースになったことへの驚きと評価を、関係者以外の人々から聞きました。そしてそれが実感としてやればできる。山梨県建築士会青年部の動きは的を得ている。という自信にも継りました。又私は、



”風景の呪縛から”

<p>7/20 (水)</p>  <p>7/23 (土)</p>	<p>具体的作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎あんない看板標示 ◎協力支援了解 (建築士会サイド・美術館サイド 施主：清水商店・マスコミ) ◎資料、道具の確保、準備 ◎現場の管理方法の確認 ◎くちコミ、マスコミでの宣伝 	<p>表現の外見イメージ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>それぞれの 日常の時間が----- 流れている</p> </div> <p>”何かおもしろいことが はじまるぞ!!と-----</p>
<p>7/24 (水)</p>  <p>7/31 (日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎風景の変容を通じて都市(街)の -----を語る。 ◎主として、人手で、下方より、白ペン キを塗ってゆく。 ◎全体の作業の”めやす”を立てる。 (◎一般の人でもできる作業 人が多い方がよいのか 少ない方がよいのか?) ◎作業が順調に進めば、足場を利用する。 	<p><u>好奇心をかきたてる。</u> ◎なによりそれぞれの立場で参加 できるワークショップなのです。 ◎下方より順に少しずつ建物が 白く消えていく。 ◎能率は悪くても時間をかけて アリが木を倒すように。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>身体をほぐし -----なじませる。</p> </div> <p><u>街ゆく人が立ち止まる</u></p>
<p>8/4 (木)</p>  <p>8/13 (土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎足場を利用して大がかりな 作業をし、大方のところを完成する。 ◎布・ロープを使って、上側・左右サイド をおおう。 (少々現場の作業に手慣れた人がいると 良いと思います) <hr style="border: 1px solid black; margin: 10px 0;"/> <p>◎写真・ビデオ撮影のフォロー</p>	<p><u>◎一挙に風景を変える。</u></p> <p>ふと懐かしい風景 ----異様な風景がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>変なものが現れてきたぞ。 暑さのなかで夢中になる。</p> </div>
<p>8/17 (水)</p>  <p>8/28 (日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎完成した風景をバックにパフォーマンス(?) ◎細部の仕上げの作業 ◎写真、ビデオ等の記録 写真・ビデオ等の 記録 (8/23~8/28。第8回志向する美術 山梨県立美術図書館) 	<p>◎変容させた風景を楽しむ パフォーマンス。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ひらかれた目で見 ほぐれた身体で演ずる。</p> </div> <p><u>日常性のなかへ フィードバックさせる。</u></p>